

保健師

ルポ



民生課職員の皆さん（筆者左から2番目・右から3番目は硫黄島へき地診療所から応援のガイドン保健師）

住民が住み慣れた島で安心して暮らせるように 看護師・保健師が力を発揮できる環境づくり

三島村福祉事務所 社会福祉主事 前田 慶太

住民が安心して暮らせるように

三島村は、薩摩半島南端から南南西約40kmに位置する竹島、硫黄島、黒島の3島4地区に、390人あまりが暮らす県内で一番小さな自治体です。役場は鹿児島市にあり、民生課は職員8名で、保健師が担当する母子保健、健康増進、診療所、介護保険、地域包括支援センター業務以外にも住民の生活に密接に関わる水道、浄化槽、住民基本台帳、戸籍、後期高齢者医療、国民健康保険、障害福祉の業務を行っています。急患発生時は診療所と連携して、ドクターヘリや自衛隊ヘリの要請を行う役割も担っています。令和3年4月から、民生課内に福祉事務所が設置され、保健、医療、介護、福祉の相談を、ワンストップで支援できる体制が整いました。

保健師不足を チームワークでカバー

令和2年度中に3名いる保健師のうち2名が退職しましたが、硫黄島へき地診療所の保健師資格を持つ看護師に応援をもらい、なんとかしのぎました。保健師人材の確保については、担当する業務範囲が幅広く、事務量も多いことから、なかなか定着しないことが長年の課

題です。

私は、12年間の病院勤務の後、調理師学校学生を経て、看護師をしながら料理で島の人を幸せにしたいと、診療所看護師の面接を受けました。当時も保健師が不足しており、「しばらく保健師」と命じられ、4年が過ぎました。今年4月からは、福祉事務所担当になりましたが、島で看護師をしたい気持ちは変わりません。島での生活に備え、船の荷役作業が手伝えるように、フォークリフトと玉掛けの資格もとりました。代わりに勤務してくださる保健師さん、いらつしやいませんか？保健師経験がなくても、日常業務で心技体（特に精神力・体力）が鍛えられ、どんな仕事でも耐えられる力がつく、三島村です。

焼酎みしま村の伝道師 みしま焼酎特酒営業部隊

三島村の特産品といえば、「焼酎みしま村」です。平成16年から村内でとれた芋を使用して委託生産していましたが、村内での製造を目指して、平成30年に黒島に焼酎工場「無垢の蔵」ができました。硫黄島でとれた芋で作った「焼酎メンドン」も加わり、民生課職員も、みしま焼酎特酒営業部隊員として「ヘル酒ケア班 酒豪」「無垢の酔心班 お湯割り奉

行」等、それぞれに焼酎好きのユニークな肩書きを持ち、行く先々で焼酎みしま村とメンドンの宣伝・営業を行っています。すつきりとした芋の甘みの後にふくよかな余韻が残る焼酎みしま村と、芋焼酎らしさを感じる華やかな香りが楽しめるメンドンを是非飲んでください。焼酎好きな方にはロックがおすすめです。インターネットで通信販売も行っています。



特産品の焼酎みしま村・焼酎メンドン
<https://mishima-shochu.jp/>
 みしま村焼酎プロジェクト

新型コロナウイルスと台風に翻弄されたがん検診

令和2年度の住民健診（特定健診・長寿健診）は、当初5月下旬に予定していましたが、新型コロナウイルス感染症により集合健診は延期し、その後、巡回診療にあわせた個別健診にしました。住民健診と同時に予定していたがん検診は、10月上旬に再度予定を組み直しました。

が、台風接近に伴い船が出ませんでした。冬は海が時化することも多く心配されましたが、無事に1月に3泊4日かけて全地区をまわることができました。船便にあわせて検診車が移動するため、暗い早朝に検診を行った地区もありました。



早朝のがん検診

診療所看護師が力を発揮できる環境づくり～看護師募集中！

三島村は、3島4地区にへき地診療所があります。看護師のみ常駐しており、月に2回鹿児島赤十字病院の医師による巡回診療が行われます。平成30年度までは、各診療所に看護師1名体制でしたが、急患発生時の対応の強化や、休暇をとりやすい環境をつくるため2名体制になりました。肉体的・精神的な負担の軽減だけでなく、諸手当を見直して待遇も改善されています。住民の一番側に

いる看護師が、様々な相談の窓口になることが多く、住民の健康と安心のために看護師の力が欠かせません。今後も看護師が働きやすい環境づくりに努め、研修体制を充実させていきます。

現在、島の診療所で勤務してくださる看護師を募集しております。島への同行案内、診療所の見学もできますので、興味のある方は是非民生課までご連絡ください。



巡回診療医師と診療所看護師



看護師研修（釣り針事故時の処置）

5年後10年後の看護師・保健師人材確保のために

昨年10月に、鹿児島大学医学部保健学科の実習教材作りに関わりました。新型コロナウイルス感染症のために、学生が現場で実習することが困難なことから、大学の先生が島で生活する高齢者宅を訪問し、動画撮影が行われました。後日、学生がその動画を視聴の上、日常生活の課題についてオンラインでグループワークと発表が行われました。学生は、人口100人あまりの小さな島の高齢者の生活に、強い関心を寄せてくれました。今年度は、実習生を受け入れる予定です。学生の間に三島村のような環境を知ってもらうことで、これからの長い職業人生の中で、ふと立ち止まった時に、行ってみようかなと思うきっかけになればと思っています。



鹿児島大学のオンライン授業に参加